

市民協働推進モデル事業計画書

(1) 実施体制

提案者	代表提案団体	特定非営利活動法人チャリティーサンタ		(担当者名 河津 泉)			
	岡山市の担当者	課名	こども福祉課		電話	086-803-1221	
		担当	氏名	武 裕子		職名	課長補佐
			氏名	小笠 佑介		職名	主事

(2) 事業の目標・内容 ※以下、数値や指標など用いながら具体的に記載してください。

<p>①社会課題の概要</p>	<p>●岡山市子どもの貧困対策推進方針1「早期に、確実に、支援につなぐ」 (別紙参照) 子どもの貧困は周囲から見えずらく、また本人やその家庭が自主的に支援を求めないケースも少なくない状況がある。SOSを発しやすい環境の整備とそれに気づくアンテナを広げ、困窮世帯の孤立を防ぐことが課題である。</p> <p>●岡山市子どもの貧困対策推進方針3「困難を連鎖させない」 (別紙参照) 貧困を連鎖させないために、子どもたちが将来の夢や希望をもってチャレンジできる環境と力を身につけていくことが必要である。基礎的な学力や生活力とともに、その基礎となる自己肯定感等を高めることが課題である。</p> <p>●調査から 「岡山県子どもの生活に関する実態調査」(H29)では、家庭の経済的格差が、体験活動の量や、自己肯定感の高さに影響を及ぼしている様子がうかがえた。 令和元年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業で実施したアンケート調査(回答者数:345名、回答率:17.2%)では、多くのひとり親の生活困窮家庭が経済的・時間的制約から子どもに「あきらめ」させる経験をしていた。当事者ヒアリング調査からは、両親が共にいる家庭が多いイベント等への参加のしづらさ、必要な情報が届いていない様子もうかがえた。</p> <p>以上より、特にひとり親世帯では、イベント等への参加のしづらさ、情報の欠如等、孤立しがちな状況にある。また、金銭的・時間的制約から親子がともに過ごす時間を十分に持ちづらく、心の安定や子ども・親の自己肯定感が育ちにくい状況にある。自己肯定感が低いために、将来への希望や選択肢を持たないまま成長することが貧困の連鎖を断つことを困難にする一要因となっていると考えられる。</p> <p>岡山市こどもの貧困対策推進方針に則り、経済的困窮家庭・ひとり親家庭等、困難を抱える家庭の乳幼児期・学童期の子どものその家庭に心に残る経験を提供し、孤立の解消、家庭の心の安定と自己肯定感の醸成に寄与することを目指した支援方策が求められる。</p>
<p>②定性効果と定量的効果</p>	<p>(定性的効果) ・子どもの自己肯定感 ・親子の愛着形成 →体験活動参加者のアンケート等で把握</p> <p>(定量的効果) ・連携企業・団体数 →目標 10社、20団体 ・提供できる支援プログラム(メニュー)の数 →目標新規3件、既存20件 ・当事者ネットワーク参加数 →目標 300家庭 ・メディアへの掲載・取材数(市民への啓発) →目標 6本</p>
<p>③提案事業の内容</p> <p>※箇条書きで簡潔に書いてください</p>	<p>1年目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じてひとり親家庭への体験活動の情報が提供できる仕組みの構築を目指す 体験を届けるとともに、連携する団体・企業との好事例を生み出す <p>①企業・団体と連携するプログラムを検討・実施する</p> <p>②ニーズ調査事業により直接的な情報提供が可能である該当家庭を始め、経済的困窮のひとり親家庭への情報発信を行い、ゆるやかな当事者ネットワーク(SNSによる情報発信・受信関係)を構築し、親子または子どもが参加できる体験活動の機会を増やす</p>

(NPO)

●さまざまな主体が子どもの貧困の解消に向けて連携できる体制づくり
困難を抱える家庭のニーズに応える意欲と資源を持つ企業や NPO 等支援団体を掘り起こし、行政・企業・NPO などさまざまな主体が連携し体験プログラムを実施できる体制を構築する。

- (1) 体験プログラムづくりに向けて日常的に打ち合わせを実施
- (2) 連携先(企業・団体)の開拓
- (3) 会議の開催(5月事業説明会&研修会(支援に関する認識強化)、1月報告会)
※ニーズ調査事業より
事業趣旨に賛同し、体験プログラム実施を検討したい企業7社(11/28時点)

●家庭への情報提供ならびに体験プログラムの実施
継続的な支援として、新規も含め、年間を通じて体験情報を届ける。

- (1) 体験プログラム情報・既存情報の提供(毎月発信)
体験プログラム情報ならびに連携団体からの情報
(ひとり親、生活困窮世帯の参加しやすいイベント等)を集約し、該当家庭に提供する。
- (2) 協働(企業や他団体との連携)による新規の体験プログラムの実施(年3回程度開催)

●子どもの貧困ならびに解決方法についての普及啓発

社会全体で子どもの貧困の解消に向けて働きかける機運を高め、市民の行動を呼びかける。

- (1) プレスリリース…家庭の声や調査内容も含め、関心を高める記事を作成。WEB 公開ならびにメディア各所に連絡。
- (2) WEB サイト運営…連携企業名を掲載
- (3) 寄付者獲得のための仕掛け…クラウドファンディングの実施等

(岡山市)

- ・事業全体への助言
- ・支援対象者(児童扶養手当受給世帯のうち3歳～9歳の児童のいる世帯)への情報提供
- ・市関係各課はじめ関係機関との調整
- ・プレスリリース
- ・岡山市母子寡婦福祉連合会との協働の検討
- ・市ホームページとの連動の検討
- ・困難を抱える子ども・家庭と体験活動を継続的につなげる仕組みづくりの検討

2年目の目標

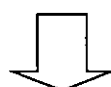
1年目の好事例を継続実施するとともに、1年目のモデルをベースとして情報の取りまとめや支援に関わるネットワーク体制を強化(連携体制確立、民間財源確保に向けた働きかけ等)する。

(NPO)

- ・体験プログラムの提供(継続・新規)
2020年度の好事例を継続実施。新規体験プログラムを構築し、プログラム数の増加を図る。
- ・ネットワーク体制強化
-連携体制の確立…連携先の拡充および連携先との関係強化
-民間による財源の確保…持続可能な活動とするための財源調整
- ・ボランティアコーディネート
体験プログラムに関わるボランティアコーディネートの充実

(岡山市)

- ・事業全体への助言
- ・支援対象者(児童扶養手当受給世帯のうち3歳～9歳の児童のいる世帯)への情報提供
- ・市関係各課はじめ関係機関との調整
- ・プレスリリース
(・岡山市母子寡婦福祉連合会との協働事業の実施)
(・市ホームページでの情報発信)
(・困難を抱える子ども・家庭と体験活動を継続的につなげる仕組みの支援)



(3) モデル事業終了後の事業

事業終了後の方針	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 次年度に一般施策<input type="checkbox"/> 市民協働推進モデル事業として事業を継続し、次々年度に一般施策<input type="checkbox"/> 次年度に提案団体の自主事業<input type="checkbox"/> 市民協働推進モデル事業として事業を継続し、次々年度の自主事業<input checked="" type="checkbox"/> その他（市民協働推進モデル事業として継続し、次々年度に自主事業と一般施策を組み合わせることを目指す）
事業の内容	<ul style="list-style-type: none">①体験プログラムの開発・実施支援および情報提供等を行うネットワークの運営（団体）②体験プログラム実施のための自主財源確保の仕組みの運営（団体）③支援の必要な当事者への情報提供（岡山市）

(4) 事業スケジュール

※自由に枠を追加・結合・分割してご記入ください。

時期		実施内容など		
		連携体制づくり	体験プログラム・情報提供	普及啓発
4月	上旬		配信する情報の収集 新規体験プログラムの検討	
	中旬		チラシ作成	
	下旬			
5月	上旬			WEBサイト運営開始
	中旬	事業説明会&研修会	① 家庭への情報収集・配信	
	下旬			
6月	上旬		チラシ発送・配架	
	中旬		② 家庭への情報収集・配信	
	下旬			
7月	上旬			
	中旬		③ 家庭への情報収集・配信	
	下旬			
8月	上旬		体験プログラム(新規・夏休み)	
	中旬		④ 家庭への情報収集・配信	
	下旬			
9月	上旬			
	中旬	体験プログラム検討会議	⑤ 家庭への情報収集配信	
	下旬			
10月	上旬			
	中旬		⑥ 家庭への情報収集配信	
	下旬		体験プログラム(新規・ハロウィン)	
11月	上旬			
	中旬	体験プログラム検討会議	⑦ 家庭への情報収集配信	
	下旬			
12月	上旬			
	中旬		⑧ 家庭への情報収集配信 体験プログラム(既存・クリスマス)	
	下旬		体験プログラム(新規・冬休み)	
1月	上旬			
	中旬	★報告会	⑨ 家庭への情報収集配信	★報告会
	下旬			
2月	上旬			
	中旬		⑩ 家庭への情報収集配信	
	下旬			

・継続して参加団体・協力団体の募集
・継続して体験プログラム構築に向けた連携体制づくり
・継続して体験プログラム実施に向けた打合せ

・随時、WEBやメディアを通じた情報発信・普及啓発

※体験プログラムの実施にあたって、クラウドファンディングの実施を検討

市民協働推進モデル事業収支予算書

提案事業名	貧困家庭の抱える「子どもの体験不足」の解消にむけた連携・支援ネットワーク構築事業
-------	--

<収入>

費目		金額	内訳
自己資金等	申請団体自己資金		
自己資金合計 (a)			
その他収入			
その他収入合計 (b)			
岡山市補助金申請額 (c)		1,470,000	
収入合計 (d) = (a) + (b) + (c)		1,470,000	

<支出>

費目		金額	内訳
事業実施経費	謝金	60,000	連携先向け研修会講師謝金・資料作成助言
	委託費	100,000	チラシやHP等のデザイン費
	賃借料	280,000	連携先との打合せ・研修会・報告会会場費 5,000円×4回=20,000円 体験プログラム 会場費 50,000円×2回=100,000円 体験プログラム 移動バス賃借料 80,000円×2回=160,000円
	消耗品費	150,000	一式(用紙、プリンターインク、模造紙、プロッキー、付箋、プログラム実施に係る消耗品等)
	印刷製本費	77,000	連携先募集ちらし 1000枚×1回=5,000円 寄付募集ちらし 6000枚×1回=12,000円 当事者ネットワーク参加ちらし 4000枚×1回=10,000円 ※2000枚は対象家庭に直接送り、残りは支援機関に設置 報告書作成 50,000円
	通信運搬費	216,000	連携先・ボランティア・報告会参加募集広報切手代 120円×1800通=216,000円
	交通費	20,000	連携先訪問 500円×往復=1,000円×20回
人件費	524,000	1,000円×554時間(詳細は別紙)	
振込手数料	3,000	振込手数料	
事業実施経費合計 (e)		1,430,000円	※想定されるプログラム(案)については別紙資料参照
管理運営経費	人件費	40,000円	1,000円×40時間詳細は別紙
管理運営経費合計 (f)		40,000円	
総事業費 (g) = (e) + (f)		1,470,000円	

(添付書類等 147)

- ・人件費等については、積算の根拠(これまでの実績や独自の単価表)を添付すること
- ・参加料などの事業収入を見込む場合は「その他収入見込」欄に計上すること
- ・委託費は補助金交付申請額の3分の1以内に限りませ